

会議名	令和6年度第2回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和6年9月24日（火） 午前10時～
開催場所	坂出市役所本庁舎 3階中会議室1
出席委員	長谷川 修一、國時 忠能、中井 今日子、多田 篤史、中橋 恵美子、 林 陽子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 議題

- （1）人口動態の詳細分析について
- （2）第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略構成案について
- （3）坂出まちづくりワークショップについて

●会長

それでは、議題（1）人口動態の詳細分析について、事務局より説明願いたい。

○事務局

（資料1により説明）

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

全体に関わることだが、全国的に地方として言われている子供を産める女性の転出が多く、少子化のみならず少母化が起きている問題が、坂出でも如実に表れていると思いデータを拝見した。

私が子育て支援の事業を行っている関係で参加した大学の先生との勉強会にて、地方に帰ってこない理由は、転職、就職、結婚であるとのことである。特に就職に関しては、正規雇用で働ける場が少ないのが、全国の地方に共通する問題である。坂出市における、保育士や看護の仕事に係る職員・専門職の正規と非正規雇用の割合を教えてください。というのも、大学教授が言われるには、大学で資格を取得した後に地元に戻るか、都会に出ていくかを決める際に、都会は正規雇用で住宅補助があり、一方地元では、求人が出ていても非常勤の枠しかなく帰れない現状があるとのこと。民間は難しいのかもしれないが、せめて市が運営しているところでは、正規枠を是非増やしていただきたい。坂出市の状況をお聞きたい。

2点目は、人口動態についてグラフのアップパーが50歳となっているが、坂出は病院が多いことが特徴であり、70、80歳代高齢者の転入を教えてください。介護に当たり、県外にいる自分の祖父母を呼び寄せるケースもよく聞くので、意外と高齢者の転入が多いのではと考えお尋ねした。

○総務部長

総数は把握していないが、正規の割合はおおよそ6割から7割ぐらいである。県下で見ると坂出市は、正規の割合が高い。保育士は非常勤である会計年度職員が、3割から4割と会計年度職員の割合が多い職種であると考えている。9月の採用枠では、正規職員を1人募集している。数年前から人口が減る中で、保育所の入所者数も頭打ちとなり、いよいよこの数年で減少すると見ている。そのような中、坂出は昔から民間の受け皿が多いが、子供が減っていくなかで公立の認定こども園では、質を高め財政を維持するため規模を適正に小さくしていくことから、保育教諭の採用枠が大きくなることは見込めない。

○健康福祉部長

私立幼稚園の園長によると「募集してもなかなか採用することができない。大学に行き直接説明をしないと卒業した学生が人材派遣に登録し、就職して自分に合わないと思うとすぐやめてしまう」との悩みを聞いた。また「紹介では、人件費的に高くなるためその部分も踏まえて学校に直接話をした方がよいのではないか」との話もあった。働き手の意識も変わってきたと思い情報としてお伝えさせていただいた。

●委員

奨学金を使って学校に通っている人も多いと思うので、坂出で就職をすれば奨学金返済が一部免除されるなど、若い人が正規で地元に戻りたいと思える施策をうたないとこの流失が止まらず、少子化にさらに拍車がかかる。

●会長

1 ページの0～1歳での転入が多いのは、外国人の方が多いためか。

○政策課

外国人だけでなく、日本人も多いと聞く。

○政策部長

推測になるが、保育所の関係もあると考えている。祖父母の家に住民票を置き市内の保育所や幼稚園に通う人もいるのではと推測する。結婚して二人の時は借家だったのが、子どもができたことを契機に持ち家に変えて、坂出に転入している人もいるのではないかと。裏付けがあるわけではないが、毎年こうした傾向が見受けられる。

●会長

この中から坂出の強みに気付かれた方がおられるか。若い女性が、出ていくことは大変なことだが、坂出の「こういうところを伸ばすともう少し若い人が増える」などの気づきの面がなにか。

●委員

4 ページの女性の動向に「就職、結婚で転出の可能性が考えられる」とあるが、新婚や出産した人達が坂出に住んでもらえる仕組みがポイントである。職場で宇多津に居を構える話をよく聞いた。その理由は、宇多津では新婚に住居補助が出るからとのことだ。保育園や学校に強みがあるのであれば、ママ友も増えつつ子供が小学校に上がっていくとなると、坂出にずっと住みたいとの気持ちも強くなるはずである。転出する理由は様々あると思うが、新婚の住まいにスポットが当てられれば、何か違う動きがでるのではないかと。

坂出に来て感じたことは、住民数に対して賃貸アパートが少ないこと。特に駅周辺の便利な場所に少ない。社宅をファミリー層に見つける時もなかなか見つからない。有福市長が言われ

ている駅周辺のアパート、マンションの増加にもつながるのではないかと。

●会長

他市と比べて子育て面での賃貸の補助はどうなっているか。

○政策課

坂出市では、結婚新生活支援として新婚世帯に家賃の補助を行っている。この仕組みについては、全県的に行っており、坂出市独自のものではない。坂出は、住宅を持つことに関して、ZEH住宅の補助を独自に行っている。住宅を持つということに関しては、比較的手厚く対応している。

●委員

私の周りでは、高校を選ぶときに高松の方が選択肢が多いため、知り合いの何人かは高松に行ってしまった。坂出で仕事をしていても、子供の高校進学時に、高校の選択肢が多いとなって、移動される方もいる。

坂出は駅から高松に通いやすいにも関わらず、もちろん丸亀方面や坂出周辺に高校は多くあるものの高松の高校を選べないので、意外に国分寺に行く人が多くなっている。小学校の先生も高松から通っている方が多い。通勤が30分程度なので不便はなく、住むのは高松、仕事は坂出という方が多い。管理職クラスになると坂出に住まわれている方も多くなるが、担任の先生は高松から通っておられる方も多い。

●会長

今のコメントで、特に男性の15から16歳の人口が減少する理由がようやくわかった。今の林委員の意見に対して、事務局の方はいかがか。

○政策部長

委員や会長が言われるように15歳から16歳の人口が減少する理由はそこにあるのかと思う。学区に関しては、市がその点で何かできることはないと思う。坂出市は、5万人弱のまちで高校が4校あり、教育環境は恵まれていると考えている。今のまちづくりにも、高校生の活力を生かしていくという考え方で進めており、魅力あるまちづくりをして住みたくなる施策を行うことが要と考えている。

●委員

今回の資料は、詳細かつ分かりやすく示されており、作成に感謝する。高校の選択肢はカテゴリーから見ると、坂出はありとあらゆる専門性を打ち出している。商業工業も工業高校も食物科の第一高校、坂出高校の美術・音楽等、すべてそろっていて、しかも駅の近くに集約されている。その意味では選択肢が他のエリアに比べてそれほど劣ってはいない。

ただし、ブランド力としての学校の魅力、ここの美術科でないと学べない、ここの何とかでないと学べない等、ここからこういう人が輩出されているということに関して言うと、都市部への一極集中のすべての結果だとは思いますが、高松に劣っているのが現状である。

そんな中、坂出第一高校の取組は、県内外から評価され、チャレンジングな活動が高松やそれ以外の教育現場に轟くようになった。その部分で坂出は、「文教シティ 坂出」をもう少し発信する必要がある。この界限の方は、坂出高校など様々なカテゴリーの学校があることを知っているが、意外と全県には知られていない。「文教、子育てでは少なくとも大学までは坂出で」ということを市の方で打ち出してもよいのではないかな。

長期的に、例えばインターナショナルスクールであったり、幼稚園であったり、生まれてから最終的に就職するまで一本筋を通して「文教シティ 坂出」を、バカロレア、ジムナジウムなどの中高一貫の国際性ある教育を導入など、ここ10年20年のことではないかもしれないが、そのような視点を教育に係る担当部署の方は持つと良いのではないかな。

●委員

ここ1年ごとの括りであるが、0から50までをやると社会減のところについて説明が書かれているが、現状、男性は働くところはあるが、女性が働く場が少ないので女性の22歳から37歳の流出が多いということだが、女性が活躍する場が増えれば解消するということになるので、私個人としてはしばらく我慢して女性が活躍できる場を作れば流出を止められるということで、この数字にあまり動揺していない。したがって、女性が活躍する場を坂出市がどんどん作っていけばよい。

●会長

それも一つの受け止め方だと思う。「課題がわかったので、それを改善すればよくなる」と読み取れるデータであり、データを見ながら様々な検討を進め、良い提案ができればと思う。坂出市でも考えてほしい。データをプラスに受け取るべきとの意見かと思うが、これに対して何か意見があれば願います。

○政策部長

この年代の女性をターゲットにして施策を打つということが坂出市の人口増、さらに言えば社会の活力維持に直結すると考えている。参考にさせていただく。

●会長

ほかに意見はないか。

●全委員

なし

●会長

次に、議題（２）第３期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略構成案について説明願う。

○事務局

（資料２により説明）

●会長

ただいまの説明について、基本目標１から３について意見をお願いします。

まず、私からお伺いするが、枠組みとすると色分けされている基本目標１から３が国の目標に順じたものと理解するが、基本目標４はどのような位置づけか。

○政策課

国の基本目標と方向性は同じである。

●委員

女性の活躍に関連するかもしれないが、この目標は生活困窮者を助けることも視野に入っているのか。生活困窮者などがどれくらいいるのかデータとして把握しているのか教えて頂きたい。我々に開示できない情報であれば、把握しているか否かを教えていただきたい。

基本目標４に関わる部分で、魅力的な地域というのは、困窮していない人が住みやすい

とを感じるまちなのか、生活困窮者も活躍できるまちなのか、どちらを目指しているのか。私としては、答えを持っていないので、この場で魅力的なまちとはどのように位置づけるのかを議論できればよいと考える。

○政策課

基本目標4についても説明をしたうえで、質問に答える。

基本目標4は、本市独自の魅力的なところを作る第三期に向けて整備が必要な部分である。委員の方々は、羅列された施策に捕らわれることなく、基本目標に対してどのような施策を行うかの点からご意見をいただきたい。

●会長

ということなので、基本目標1～4に関するご意見を願います。

●委員

基本目標の文言を再考いただきたい。基本目標の1とか4のタイトルの「地方に仕事をつくる」「魅力的な地域をつくる」など、よその話のような言い方ではなく、「坂出に仕事をつくる」「魅力的な坂出をつくる」と言い切らなければ覚悟ができない。ここの言葉選びを再考願う。

第3期までの間に、駅前再開発はスタートしていくのだと思うが、駅前再開発により、ハードはできるが、ソフトに関しても同時に動かしておくことも必要である。

一つは、坂出市に市民活動センターや女性活躍を促す視点から男女共同参画センター的なものが必要である。香川県内でも男女共同参画センターが少なく、全国的にも遅れている。丸亀市では、市民協働の拠点、男女共同参画の拠点に力を入れている。駅前の施設に市民活動的な機能は挙げられているが、機能ができたなら人が集まるわけではないので、そこにこういう活動をしたいという市民活動の種を撒いていくような仕込みが必要である。

基本目標4の市民参加によるまちづくりがあるが、まちづくりは市民がそもそもやるもので役所がやるものではない。ここも言葉選びが大切であり、「市民がまちをつくるのだ」という覚悟を持ってもらう働きかけが必要です。そうであれば、市長対話するとか出前講座や自治会活動支援だけではないはず。せっかく駅前再開発ができるので、市民参加のまちづくりにカッコ付けして、具体的事例を大項目の中に書かない方がよいのではないかと。

であるので、基本目標3の男女共同参画社会形成と基本目標4の市民参加のまちづくり

を少し考えてもらえると良いと思う。

3点目、基本目標3の結婚、出産、子育ての希望を叶えるとあるところ、ここの基本的方向の中に結婚支援の言葉が少ない。結婚支援は県の施策にゆだねるのか、市として独自に取り組むのか、もう少し手厚く検討いただきたい。

最後に、坂出市民の誇りの醸成をどのように進めるのか。例えば、高松だと、栗林公園や玉藻城等シンボリックなもの、丸亀なら丸亀城、飯野山といった、坂出市民としての誇り、サヌカイトもその1つかもしいないが、それらを選択と集中をして絞ったところにスポットライトを当てた上で、仕掛けていくことが必要である。計画書の中にも盛り込んでもらいたい。

○政策課

今のところ、タイトルの部分に関しては国の基本的方向性を挙げている。

事務局としては、説明したように、若い世代が働きたいと感じる仕事を創出することが大事であると考えている。

基本目標2に関しては、にぎわいを作っていくために若い人が住みたいまちを実現することを検討する。

結婚、出産、子育ての希望がかなえられる基本目標3の部分は、住み続けたい価値を生み出したいと考えている。

基本目標4の魅力的な地域に関しては、第二期までは、第1目標、第2目標に含まれないものが第3目標に入っており、目標が見えにくいものがあつたので、坂出市独自の魅力を再考してこの部分で差別化をしていければと考え、4の目標として提示した。基本目標のタイトルについて、再考する。

結婚支援に関しては、現状では商工会議所青年部に婚活の予算を付けてイベントを実施している。もう少し幅広く検討する必要があると考えている。

坂出市の誇りについては、基本目標4で差別化、それがプライドに繋がっていくと考えている。

●会長

一言付け加えさせて頂く。サヌカイトが坂出の一番の誇りになるのではないかな。なぜなら、3万年間という香川の歴史の中でも一番古い歴史を持つ。縄文時代から弥生時代にかけて金山の石器が中国四国地方を席卷していた。ものづくりの原点は、サヌカイトの石器

である。その石器が楽器として音楽クリエイターなどが注目されており、金山のサヌカイトは世界からも注目されている。

●委員

うちだけ、ここだけを打ち出すべき。サヌカイトは訴求力がある。坂出にしかない魅力を掘り起こしたい。

第三期の4つの分類に関して、国の指針に沿って設定されたと説明があった。2と4の「人の流れをつくる」と「魅力的なまちをつくる」は、魅力的なまちであれば人の流れができるので、重複している部分がある。国の分類に当てはめているので多少重複している点は納得した。

中心市街地活性化公民連携事業について、これも重複していると思うので、市で決まったこととこれから進めることのうち、市の直近の動きは、もう少し具体的な言葉として記述、つまり市の直近の動きとして2と4に同じように書かれているが、4の方で具体的に書かれるのがよい。

坂出港が国際港であるように、坂出には国際的なフックがたくさんあるので、国際化を目指す動きを何かに盛り込めたらよい。世界の人が注目するものがここにあると打ち出せるとよい。

○政策課

様々なご意見を頂いたが、今後各課ヒアリングを予定しているので、相談を進めていきたい。

●委員

港湾の中に砂浜を作ることやGXなどを市の方と話した。人が集まらないところでGXをやっても写真や情報が広がらないので、できれば港内で行いたいと話をしている。港内でできれば、社会的に「こんなことができた」と話題が広がる。港に関しては、1km先に行ってしまうと、50m水深があるところもあるので、浚渫なしに岸壁ができるが、そこまで伸ばすのか、というのもあるが、それができたら、船も通れるようになるのでかなりいいかもしれない。

また、夕日が瀬戸大橋に沈む景観が魅力的なところもある。港にも目を向けてもらえればと思う。

○建設経済部長

「仕事をつくる」との意味合いとして港の話をしていただいたと理解した。

総合戦略の中で「仕事をつくる」に関して、今の段階では商工業の振興と大きな括りで示しているが、国際競争力や企業の競争力強化が大切であるとの観点を持っている。

GXでは、砂浜で藻場があるとか、五色台は夕日がきれいであるなど観光の面でできるものがあると考えている。「仕事をつくる」で今考えているのは、求職者と就職者にギャップがあり、それを埋めることが課題で「働きたい仕事」との表現として示している。そのためには、これから発展していく仕事や国際競争力の観点から検討を進めていく必要があると考えている。

●委員

高松の生まれで高松に住んでいるが、坂出の魅力や誇りとして、瀬戸大橋はすごいと思う。過去には、瀬戸大橋の博覧会があり多くの人が集まり、瀬戸大橋記念公園周辺は魅力的である。観光の視点からは、カフェの整備などもっと魅力的にすることが重要と考える。

瀬戸内エリアは、世界からも注目を浴びており、サンセットクルーズなどもあるといい。また、瀬戸大橋記念公園のサッカー場についても、サッカーだけでなく、コンサートなど活用用途があるのではと考える。

○建設経済部長

地域プライドとして瀬戸大橋は、十分にその候補である。

サッカー場は、青年会議所がサッカー場を使って花火をあげたことがあるが、それ以外では使ったことがない。

瀬戸大橋周遊クルーズについては、観光協会が松山のベイマリーナと夕日クルーズなど共催をしている。観光協会単体でも企画をしていきたい。公園内に、カフェなどが少なく、創業など含め検討したい。

●会長

海と港は宝だと思う。坂出の商店街衰退についても船がなくなり駅と港の間を行き交う人の流れがなくなったためであり、海と港の活用を考えるべきである。

●委員

バス廃止に関心が高い。川東は人口の2/3を占めるが、新しい図書館やまちができるが、そこの子供たちは送迎で、高松のイオンに行ったり綾川のイオンに行ったりする流れが多く、親としてもあっちの方が店があるからと流れているのが現状である。そのため、子どもたちが新しくできる駅前に集まれる環境を作ることが重要だと思う。子どもが自由に送迎なしで動ける環境も欲しい。

幼少期よりバスに乗せる経験をさせたり、自動車ではなく、公共交通を積極的に使わないとバスがなくなるといった住民自身が考え方を变える必要もある。その上で、バスの路線や便を考えていただきたい。

○政策課

バスに関しては、減便になるが、代替えとしてデマンドタクシー（乗り合いタクシー）で坂出駅方面への移動を考えている。

●委員

デマンドタクシーは今もあると思うが、どれくらい使われているのか。うちの近隣にもバス停があるが、利用者をほとんど見ない。状況を把握したい。

小豆島や屋島では、自動運転の実証実験も行っているが、坂出には導入できないのか。

○政策課

デマンドの利用数については、数値が手元にないのだが、利用者数が少ない傾向ではある。しかし、デマンドであれば乗降場所を家の近くに設定でき、歩くことが少ない利点があるので、その点を周知していきたい。

自動運転については、どうしていくのが公共交通にとっていいのか、考えていきたいと思う。

●会長

先週、ジオ・ガストロノミーツーリズムエキスパート養成講座に参加しており、海外に住んでいて、坂出に帰ってきたライターと話をすることがあったが、その中で、一度出ていった人が帰ってきたくなるまち、「お帰りなさい」と言ってもらえるまち、であると良いと言っていた。

進学やその後に出て行くのには色々な事情がありやむを得ないが、その後に帰ってきた
いと思えることこそが大切だと思う。帰ってきたいという気持ちになるには、子どもの頃
の体験・経験、つまりアイデンティティがこの土地にあると思える必要がある。

私は、讃岐ジオパーク構想において、この土地の恵みが地域のアイデンティティを作る
との考えで活動を進めており、ぜひそのような視点も考えていただければよい。

ほかに意見はないか。

●全委員

なし

●会長

次に、議題（３）坂出まちづくりワークショップについて説明願う。

○事務局

（資料３により説明）

●委員

資料４ページは、チラシの原案と考えてよいか。９月末を１回目とすると１０月１２日は２
回目となるが、チラシに第何回の表記はしないのか。

○政策課

９月末は高校生を対象とし、１０月１２日は一般の方を対象とする会で、対象者が異なるた
め別の会合チラシとして回数は載せていない。

●委員

資料１でデータを示していただいたように、転出した人の意見や声の情報やデータが重要
ではないか。出ていきたい人だけではなく、職がなく出ていくしかない人や地元の生活が
煩わしいと感じて出ていく方もいるかもしれない。そのような方は何かフックがあれば戻
りたいのだというのであれば大変重要な情報になる。転出した人がなぜ出ていったのかの
声を拾うことが大変重要である。

○政策課

成人式の実行委員をしている人への呼びかけを行っている。また、坂出に住んでいない方にも声かけをしている。ほかの方法も事務局で検討する。

●委員

県も同じ課題を抱えており、高校生の時にメールアドレスを集めて県から香川の仕事などの情報を発信している。県とタイアップし坂出の方の情報を集めることを検討してほしい。

○政策課

県にも確認する。

●会長

ワークショップは、40歳以下の年齢制限があるが、それ以上の方の参加は難しいのか。

○政策課

若い世代を中心に意見を聞き取りたいため年齢制限をした。まちづくりに興味がある方の声は拾っていきたいが、今回はこの条件で進めたい。

●会長

40歳以上でも坂出に戻りたい方の声も汲み上げられるよう考えてほしい。

資料2で第3期の目標のところにカッコ書きで色々具体的な施策が書いてあるが、それにとらわれてしまう可能性があるため消した方がよいのではないかと。

○政策課

第3期の構成のところに関しては、第2期にどのような施策が入っていたのかを具体的な例示として入れたもので、第2期の中身を第3期に入れていく事は考えていない。ご意見のように外してみても、施策としては位置づけるものができるように検討していきたい。

●会長

ほかにも意見はないか。

●全委員

なし。

●会長

その他でなにかないか。

●委員

市民活動センターなど市民の活動を集約する場所がないと申し上げたが、とはいいながら、民間の方が坂出のポテンシャルを上げていくイベントを駅前などで行っている。ネットワークに関しては、行政主導で仕掛けない方がよいのだが、ワークショップ参加者などのコミュニティをSNS等で作るのが良い。何かをしたい時に、声をかけられたり、相談ができたりする場所としてコミュニティがあることが重要だと思う。

○政策課

市でも様々なまちづくりのワークショップを行っており、その後どのように声かけを行うかの課題がある。今回のワークショップ参加者の方に、今後のお誘いメールなどを送ることも検討したい。

●委員

仕事で飛鳥Ⅱに乗船した際に、スーパーヨットのオーナーと話したところ、香川は魅力的であるが、ビジターバスが不足しており中々調達ができないとのことだった。

先ほど観光協会が松山のベイマリーナと連携して取り組みをされているとのことだが、良い悪いではなく、なぜ松山なのか、どんなご縁があったのか。

個人でクルーズをコーディネートされている香川の方も多く、また大阪万博に関係して個人でコーディネートしてお客様をよんでいる人がいっぱいいる。その方々と坂出が連携していくために、こんな事例、こんな人材やこんなコーディネーターがいるとの調査を急がないがすると良い。坂出にビジターバスの的なものを準備し、瀬戸大橋、夕景や工場夜景などを企画することも可能ではないか。

○建設経済部長

松山地区の事業者と協力をしていることについては、愛媛県ではなく、坂出市内の大屋

富付近の松山地区にある事業者のことである。

ビジターバースについては、瀬戸大橋ができた時に与島に作っており、フィッシャーマンズワーフがなくなり使われていないのが現状である。

今の与島の北側の塩浜地区でも、講師運営の方とヨット等で何かできないかとの話がちらほら聞こえてくるが、実現するまでの状況ではない。場所を探しているとの情報は聞こえ始めた。観光の方でとの前提がつくが、人脈が重要と考えて、法人化した後に賛助会員を声かけして探している。古民家をリノベーションして宿泊しているところや、外国料理を出すところに声をかけたりはしており、坂出市内でそのような活動をしている人が集える観光協会になればよいと考えている。

●会長

資料2、最後の基本目標4については、1、2、3に入っていないものを4に集約したということ、これについては見直すという事でご了解願いたい。タイトルも含めて魅力的にしたい。

3. 閉会

○事務局

以上で、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了する。